

令和7年度 第1回静岡市史跡小島陣屋跡整備委員会 会議録

- 1 開催日時 令和7年6月25日(水)13時30分から16時
- 2 開催場所 史跡小島陣屋跡、小島町自治会館
- 3 出席者 坂野委員、禰宜田委員、中井委員、前田委員、三浦委員、  
松永委員、渡邊委員  
＜事務局＞平野課長、小泉埋蔵文化財係長  
望月副主幹、小林主査

4 傍聴者 なし

5 会議内容

(1) 開会

(2) 議事

○議題 馬場跡整備について(資料3)

(事務局)

令和6年2月に追加指定を受け、昨年度公有化を実施した馬場跡は、整備基本計画では「発掘調査を行い、馬場の範囲や遺構面の高さを確認する」とあり、整備計画としては「陣屋関連施設や遺構が確認された部分に遺構解説板を設置する」と記載されています。つきましては、本日の整備委員会で改めて整備内容についてご意見をいただき、その内容をもって文化庁と協議を行い、来年度の整備実施を目指していきたいと考えております。

具体的な整備内容案ですが、まず馬場跡の舗装は、ダスト舗装を計画しています。ダスト舗装は土系の舗装の一種で、碎石などのダストを敷き均して転圧をし、固める方法になります。公園の広場や学校のグラウンドなどで多く採用されている舗装になります。この方法は、他の方法に比べて費用面や雑草が生えづらいというメリットがあります。

次に解説看板の設置です。馬場跡は陣屋の正面入り口にあたる大手通路が続いている場所に位置していますので、史跡全体と馬場跡について解説した内容の看板を設置したいと考えています。看板の板面の大きさは、大体縦110cm、横150cm程度のものを想定しており、陣屋の雰囲気にも馴染むよう擬木の製品を採用したいと考えています。

す。

この他、馬場跡の北側が民家になっていますので、境に目隠し用の植栽を設置する予定です。それに伴い、植栽管理用の水栓柱も設置予定です。目隠し用の植栽につきましては、今後指定範囲が変わった場合や、近隣住民の方からのご要望があった際に対応できるように、直接地面に植えるのではなくて、資料の写真にあるようなプランターに、大体高さ2 m程度までの中木を植えることを想定しています。

(中井委員)

資料の図を見ると、馬場跡の道路側に擁壁ができるようですが、看板の設置予定場所の段差はどのようになるのでしょうか。

(事務局)

現状は、宅地造成されコンクリートのブロックで土留めされ、大手の方が少し高く、元民家の方が低くなっている状態です。そこはそのままの状態で残る予定です。

(中井委員)

看板の向きはどのようになる予定でしょうか。

(事務局)

大手の登り口側が正面で、馬場跡側は裏面になる予定です。大手へ向かう上り口を左手斜めに行けば大手になり、右手に行けば馬場跡に向かうことができます。

(中井委員)

重力式擁壁は設置しない場合もあるのでしょうか。

(事務局)

現在は民家がありませんので、急傾斜地のレッドを解除する必要はなくなりましたが、レッドを解除したい場合には、重力式擁壁の上に50 cm程度のフェンスを設ければ規定の数値に達し、レッドが解除できる仕組みになっています。必要な場合にレッドを解除することができるよう、高さ1 mの擁壁を設置します。

(渡邊委員)

擁壁の上にネットフェンスをつけるとレッドが解除されるということですが、どの

地域のレッドが解除されるのでしょうか。

(事務局)

資料6の平面図の中で、急傾斜地特別警戒区域、レッドと言われているのは、斜面の真ん中あたりのピンク色で表示されている範囲になります。図の一番右側の民家はレッドの範囲に入っていません。その隣の民家2軒の後ろの斜面には連続繊維補強土工と鉄筋挿入工という工事を行っています。連続繊維補強土工だけでも安全率は満たしますが、レッドの解除に必要な工法としては不足するため、加えて鉄筋挿入工を行っています。左手側の今年度の工事範囲では、連続繊維補強土工を実施し、加えて擁壁にフェンスを設ければレッドが解除されるという仕組みです。

ご質問のありました解除される範囲というのは、擁壁より斜面側の方になるため、それよりも斜面下側の民家の方は、そもそも特別警戒区域には入っていません。

(渡邊委員)

フェンスの有無に関わらず、レッドが解除されていなくても問題ないという解釈でよろしいでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。

(渡邊委員)

擁壁のところにフェンスを設けなくても、この擁壁の一番上から、角度30度でずっと上がっていた範囲に現状の法面が入ってしまえば安全だということにはならないでしょうか。

(事務局)

そもそもレッドの範囲というのが30度を超えて連続する斜面の長さによって定まっていますけれども、その範囲の土量を受け止めるものが、擁壁になります。高さが規定に達していれば、斜面全体のレッドが解除されるという仕組みです。いずれにしても、レッドの範囲は全て公有地化している範囲であり、民地との関わりはなくなったということになります。

(坂野委員)

今回の馬場の整備は、観光客の視点で考えるとどこから何を見たらいいのか、少し不透明だと感じます。柵で仕切られた閉鎖的なところに入り見学するのがいいのか、斜面が崩れる危険性があるところに積極的に人が入っていいのか。フェンスの外の道路上から見てもらう話になると、これもまた安全面でどうかというのも気になります。ここが馬場だったと言い切れない状況ですが、看板を見てから大手に上がっていただく動線なのか、この中入ってちょっと変わった石垣も見てもらうのか、そのあたり何をどう伝え、どう見てもらうかを、その安全性や見に来る方の興味も含め、明確にして、動線を作ることが必要なことだと思いました。

(事務局)

まず斜面の安全性についてですが、連続繊維の補強で斜面を固定する方法は、他の道路工事で行うコンクリートのフレームがメッシュ状に入っている法枠工という方法と、安全率の計算上では同じ強度を持っています。そのため、急に崩落することは基本的に考えにくいと思っています。今回の発掘調査で馬場跡の痕跡は見つからなかったこともあり、何かを見てもらえるような積極的な構造物は難しいため、馬場跡だけだろうという広場的な空間のイメージを持ってもらうために、舗装をかけていくというのが一番馴染むと考え、このような内容の整備を考えています。動線としては、中に入って石垣を見ていただき、本日の現地視察の際にご指摘いただいた奥まった空間に何らかの施設があった可能性を、案内板などで活かすことができると考えています。大手口の看板を比較的大きめなものを設置するという予定でありますので、そこに小島陣屋と馬場跡のことについて紹介したいと考えています。現時点で馬場跡は、石垣にも興味を持たれた方が中に入り見学する副次的な動線になることを想定しています。

(禰亘田委員)

質問ですが、既に整備された案内板が何枚かありますが、案内板にも階層を作る可能性があるということでしょうか。今回また下の方でも作ると、おそらく登城道というか、そのようなところでも案内板が必要になるのか、案内板全体の中でどういう配置になるのか、その中で今日の石垣であれば石垣の案内板っていうのは、今計画されている案内板でも、ちょっと大きさを変える可能性もありますよね。全体でどれだけの案内板を作ってという全体計画のようなものがあっていいのではないかと思います。その場合に日本語だけでしょうか。一応、文化庁は4カ国語を提唱していて、それを一つの案内板にするととなると煩雑になると思います。ですから、そういう

史跡に求められる要件を、この場合にはどのようにしてクリアするのか、二次元バーコードか何かでやるのか、何かやり方がいくつかあると思いますので、全体の考え方をお示しいただきたい、あるいは今後検討されたらよいのではないかと思います。その際に史跡の地図を作る場合に、必ず現地に立って地図を確認していただきたいです。必ず現地に立ち、方向がわかりやすいようにしていただきたいです。

(前田委員長)

これについては、便益施設のところの掲示板は絡んでいますでしょうか。

(事務局)

便益施設の方はチラシやポスターを掲示することを想定していますが、まだ掲示板の中身については十分に検討できていません。

(前田委員長)

今のところ便益施設の掲示板は多目的ということですね。

(事務局)

以前に整備委員会で議論させていただきましたが、整備の実施設に案内板の位置というのが記されています。確かにご指摘いただいたように、全体の配置計画の中で示さなければわかりにくいと思いますので、改めて示させていただきたいと思います。また、馬場跡のところは、整備の設計ができた後に公有地化され追加されたもののため、全体の中でどのような内容が表示されることが望ましいのかは、改めて諮らせていただければと思います。馬場跡の看板設置予定場所の付近に、地域の任意団体が設置した小島陣屋の看板が既にあり、これからも活かす予定です。そのため、新たな案内板の中身のところは、既設のものと比較し内容を検討したいと考えています。案内板の内容については、また改めてご意見をちょうだいしたいと思います。引き続き、多言語化についてですが、現時点で御殿書院を訪れる方の実績からは、あまり外国の方はいらっしゃっていないようですが、今後検討したいと思います。

(三浦委員)

この馬場跡の舗装ですが、ダスト舗装と書いてありますがダストとはゴミとかくずとかのことでしょうか。ここはほぼ馬場だとすると、この舗装はいかにも馬場を見ているような舗装でないといけないので、ダストというのは何を使うのか、教えていた

だきたいです。

(事務局)

冒頭説明しましたように、学校のグラウンドのような舗装のことをダスト舗装といいます。

(三浦委員)

小島陣屋の本体、要するに陣屋の建物を建てたところを、盛り土をして保護していますが、一般的に国史跡の保護盛り土は真砂土を使うところ、産業廃棄物を粉碎したもので盛り土がしてありました。遺跡の舗装としては不適切だと思いますので、同様の土で舗装するのであれば反対します。確認してください。

(事務局)

同様の土ではありません。

(三浦委員)

そうですね。遺跡の保護層に産業廃棄物の建築破材を使用し、遺跡の中に混ざってしまうと、後世に再発掘した際にわからなくなってしまうため、産業廃棄物の粉碎したものの使用するべきではありません。表面の土だけでなく、全て新品の綺麗な土を入れるべきなので、注意してください。

(前田委員長)

駐車場に車を置いて見学される方、あるいは路線バスを使って来られる方、いずれにせよ、順路としては大手口の方から歩くことになります。そうなると、最初に目に付くのはやはり今日皆さんご覧になった馬場の石垣だと思います。石垣が小島陣屋も大きな売りの一つでもありますから、やはりあれが第1印象になってくるものだと思います。そういった中で、今日の現地視察で確認した、角石を整えた間に乱雑に埋めたようなところがありましたが、これについては、今日初めて委員の方々、同じ目でご覧になって、完成したところを埋めたのではなく、どうやら途中でやめたのではないかというような話に、私自身は納得したような思いです。何らかの施設を作ろうとしたということで、尚且つ馬場というものはそういったものが伴うものであるということも、注目すべきポイントだと思います。それからそこが地すべりの被災地の跡であって、その急傾斜地を公開するにあたって、いかに安全面を保ちながら、保護して

いるかという、その手法についても注目される部分があるかと思えます。やはり小島陣屋の最初の入り口のところです。そこをただよくわからないまま登っていくのか、あるいはそこに立ち止まっていくつか見て学んでもらうように工夫するかというのは、これから考えていくことだと思えます。それによって看板をどのように置くべきか、どの程度内容を凝るべきか、ということになりますので、また皆様にいろいろとお考えいただき、ご提案いただきたいと思います。

#### ○議題 史跡南側のロープ柵改修について

(事務局)

史跡南側のロープ柵について、劣化による損傷が懸念されます。現時点での整備計画では令和10年度に改修予定ですが、状況によっては、史跡の来訪者の安全確保のため、前倒しで実施したいと考えています。また、改修にあたっては、耐用年数を考慮し、杉などの天然木ではなく、擬木柵を使用したいと考えております。天然木の場合、数年で劣化することが考えられますが、擬木柵であれば、耐用年数は10年以上になると見込まれます。

(前田委員長)

整備の前倒しと、耐用年数を考慮した擬木柵への変更について承知しました。

#### ○報告 便益施設について(資料4)

(事務局)

先ほど現地視察でご覧いただきました便益施設の工事は、今年度中の完成を予定しております。隣は駐車場予定地となっており、令和8年度に整備予定です。便益施設の主な機能はトイレになりますが、それ以外の機能として、情報発信としての掲示板が壁面に3つ設置される予定です。A2のポスターであれば12枚程度が掲示できる想定です。具体的な活用方法がまだ決められていませんが、例えば地域のイベントのお知らせや、小島陣屋に関わるイベントのお知らせなど、書院で掲示物を貼ることが難しい分、便益施設を活用し発信していきたいと考えております。資料2枚目の平面図になりますが、男性と女性のトイレの他に、オムツ交換台を備えた多機能便所

を設置予定です。トイレの床はバリアフリーです。また、史跡の維持管理のための倉庫を備えており、草刈り機や掃除道具などの収納を予定しています。

(三浦委員)

この便所は、入り口が15 cm高くなっていますが、どこか一か所でいいので、車椅子が上れるバリアフリーにしていきたいです。

(事務局)

その図の中でもれてしまっていますが、スロープが付く予定になっております。多目的トイレ側のところのから右手、平面図でいくと右手側が駐車場になります。この軒下と書いてあるところから右手側に進みまして、建物沿いに折れて、倉庫側に向かってスロープがつく予定です。

## ○報告 御殿書院の公開状況について (資料5)

(事務局)

御殿書院は昨年12月15日から公開を始めました。昨年度中は職員が開館の対応をしておりましたが、今年度の4月からは、小島町文化財を守る会が法人化し、NPO法人小島文化財を守る会として活動を始め、市から管理運営業務を受託しその中で土日祝日の書院の開館とガイドを行う体制となっております。来場者の状況から、今年度は開館時間を3月から10月までが9時半から15時30分まで、11月から2月までは15時までと、季節によって開館時間を変更しております。来館者人数は、1月から5月までで男性が653人、女性が483人、子どもが98人で、合計は1,234人です。月ごとで考えますと250人弱という結果ですので、もしこのままのペースで来館いただきますと、年間約3,000人の計算となります。来館者の市内と市外の割合につきましても、書院に設置している芳名帳の1月から3月ごろまでの記録で集計したところ、市内が約68%、市外が約32%という結果になりまして、約3割の方が市外からという結果になりました。芳名帳の記録によると、遠方は福岡や、奈良、大阪の関西圏からのお客様がお越しいただいているようです。市の職員が対応する土日祝日の個人以外の対応につきましても、そちらの資料の下の方に書いてあるように、これまで地元の清水小島中学校、小学校やテレビの取材などに対応しました。

(坂野委員)

NHK大河ドラマ「べらぼう」の放送が6月8日でしたが、その反響があったかわかれれば教えていただきたいです。また、NPO法人への委託について、ざっくりで構わないので、何を地元の方々が担っているのか、どのような契約になっているかわかれれば教えていただきたいです。

(事務局)

「べらぼう」の反響につきましては、NPOの方々に聞き取りをしたところ、前にも来たことがある方がもう一度訪れたり、恋川春町の反響が大きいのではないかと思います。ただちょうど放送があった後の土日の天気あまり良くなかったこともあり、すぐに放送の影響が入館者数に反映された結果にはなっていないかもしれませんが、今後の入館者状況に変化があるかは見ていきたいところです。今年度のNPOへの委託は、大きくは史跡の管理と運営という内容で、史跡内の草刈りやゴミの掃除、書院の開館業務、来館者に対するガイド等のほか、年に2回以上イベントを実施するという業務内容になっています。今回任意団体からNPO法人に移行するという中で、まだ今年度の総会が6月27日に開催予定になっていまして、具体的な今年度のイベントについてはまだ決まっていません。

(前田委員長)

入館者の中で、何か心に残るような、参考になるような、そういうご意見や感想があったら教えてください。

(事務局)

書院の中を見て、素晴らしいと言ってくださる方も多いと聞いております。また、書院には多くの古い部材が使われていることや、書院の歴史について説明をすると、とっても驚かれて、感心される方がいらっしゃる聞いております。書院から見る風景も素晴らしいと言ってくださる方もいると聞いています。小島藩がどういった藩なのかを、そこまで深く知らずに訪れる方が多いということで、一万石の小藩だったという話をすると、お城が好きな方、また自分の地元にお城があるような環境にいらっしゃる方だと、こんなに立派な陣屋を作ることが許可された点を驚かれる方もいらっしゃるというのは聞いております。

(前田委員長)

何かご意見、ご提案とか要望とか、そういったものはありましたか？

(事務局)

要望については、NPOからの報告にそこまで上がっていないので、そのような観点での感想を受けているかどうか、確認したいと思います。

(松浦委員)

小島中学校小学校のみなさんはお声がけしてこられたのでしょうか、それとも自発的に学校側からでしょうか、経緯を教えてください。

(事務局)

今年の6月の小島小学校の見学につきましては、今年度になってからご挨拶に伺った際に、ぜひ見学に行きたいと考えていましたというお話がありました。こちらから書院の移築復原が完了したので、ぜひご見学をというお話をする前から関心を持っていただいていたと思います。3月の小島中学校の見学の経緯につきまして把握できておりません。

(松浦委員)

学校関係の関係者の方に声かけもしくはアピールはされたということでしょうか。

(事務局)

市内全体につきましては、今度校長会という事の校長先生たちの集まる会がありますので、そこで小島陣屋のことをアピールするために資料をお渡しする予定です。小島陣屋に近い地元の中学校、小学校には直接ご挨拶に伺ったという状況です。

(松浦委員)

そうしますと今回もっと積極的にお声がけして、もっと見学の学校や団体が増えるだろうというお考えですか。

(事務局)

そうです。今度の校長会の方でお話させていただいて、もっと学校での見学利用をご検討いただきたいと思っております。

(前田委員長)

見学されるときは、引率の先生は一緒に来て説明を受けるだけでしょうか。

(事務局)

先日の小島小学校の場合は、先生にも一緒に説明を聞いていただき、見学の前に事前に市側にどのような観点で説明してもらいたいかが要望をお聞きしていた状態でした。

(前田委員長)

できれば事前学習をやってきて、そして現場で先生も含めて一緒に見て、そしてまた学校に戻ってから振り返りを行うことができればいいと思います。「見に来てください」ばかりではなく、先生方にも教育の場として活用してもらおうというか、先生だけを対象にした説明会のようなものがあつたらよいのではないかと思います。

(松浦委員)

学校の皆さんは歩いてこられましたか？

(事務局)

小学校のみなさんは歩いて来られました。

(松浦委員)

中学校さんはそれより上の方ですね。近隣の学校からなら歩いて来られますから、それも一つ行事になると思います。定例化していただければと思います。

(渡邊委員)

清水小島中学校の3月の来訪というのは、私に対応したときのことなのかもしれないので、少しお話します。私は文化財を守る会の会員ですけれども、もう役員を退任しております。私のところに中学校で説明をしてほしいという連絡が入ったため、文化財を守る会の方に承諾を得て、対応することになりました。子供たち5名から6名と、数名の先生たちに説明しました。外部の石垣や建物の説明をしましたが、特に、建物内の説明では雨戸を閉め、案内を暗くし、このような生活をこの時代にはしていたと話すと、子どもたちは非常に興味を持ったようでした。来ていただく方によって、どのように案内したらよいか勉強する必要があると感じました。現地でお弁当を食べたかったのですが、寒くて外で食べられる状況ではありませんでした。

(委員長)

もう新緑の頃ですので、弁当を持って木陰で食べる、そういう方たちもいたのでしょうか。

(渡邊委員)

そのように計画をしましたが、寒かったです。書院の中では弁当が食べられませんので。来た方たちがそこでどのように過ごすことができるかということが大事だと思いました。今日のような暑い日に木陰が一つもない炎天下で、食べ物もジュースの販売機もないところで皆さんどうするだろう、できれば木陰を作っていただく造園計画も必要かと思います。以前、ご検討願いたいとお話させていただきましたところ、この敷地の中には、木を植えてはいけませんというお話をいただきました。また地元の方々の意見を聞きますと、現在桜が4本ほどありますが桜がとっても綺麗に咲き、その時には非常に見学者が増えます。子供連れで来ます。ですから、私個人としては、やはり桜等の樹木を植えるなど、四阿は計画の中にあると思いますが、夏の日陰を作り、子供たちを連れてきてもそこで遊べるような時間を過ごせる場所も必要ではないかと思います。来ていただいても説明だけで暑くてしょうがない、寒くてしょうがないので帰る、というのは勿体ないように思います。

(前田委員長)

これからまた夏休みとか、家族連れとか、あるいは夏休み自由研究というか、そういったことで来館者があるかと思っています。そういった問題もこれからいろいろと明らかになってくるかと思っていますし、そういったものに対しても、聞く耳を持つことが大事だと思いますので、参考にしていきたいと思っています。

(松浦委員)

最終的な完成の想像図というか、予想図を示していただかないと、今日のこの段階での議論とか、将来的にこうなるということを踏まえての話にならないので、そこを何かビジュアルで見せていただけると、より突っ込みどころがわかってくるとと思います。

(事務局)

整備の設計図があるものですので、それを示すようにさせていただきます。

(渡邊委員)

前回の会議の中で、三浦先生が柏原陣屋が素晴らしいとおしゃってしまっていて、興味を引きましたので2週間ほど前に見てきました。柏原陣屋は本当に三浦先生が言うように素晴らしいものでした。ただ、私が思ったのは、前回、三浦先生がお話されていたとおり、小島陣屋は石垣がすごい、これはもうどこの陣屋を見ても、こんな石垣を持った陣屋はないと実感してまいりました。小島陣屋は石垣を持った陣屋という点を売りにするというのが、非常に大事だと思いました。

(三浦委員)

確かに日本で一番遊び心のある石垣ですね。笑い積みとか八つ巻きとかをいっぱい使っています。見事ですね。あれは現地で案内する方がそれなりに「ここを見てください」と言わないと、「ただ石垣がある」で通り過ぎてしまいます。

(委員長)

小島陣屋を説明するときに、石垣が先になるか書院が先になるかというところ、やっぱり石垣がということになるのでしょうか。

(三浦委員)

対外的に小島陣屋はこういう特色がありますっていうときに、両方とも大事です。なぜかと言うと、小島陣屋の御殿書院はですね、日本で一番小さい御殿です。柏原陣屋は陣屋の中で最大級です。比べると非常に違いますが、陣屋というものは多様性があります。一番小さいことは悲劇ではなく、一番小さいから工夫しました。普通であれば多目的に作るのではなく部屋ごとに使い方が決まっていますが、小島陣屋はお金が足りなかったため、一つの家を多目的に使いました。そうやって考えると、日本の書院造りの建物を多目的に使った日本歴史史上初のもので、いろいろな意味で面白いです。小さいけど小さいなりに工夫している、その工夫が素敵だなと思います。だからぜひともそう伝えていただきますと、お喜びいただけたらと思います。

(前田委員長)

非常に魅力的な説明の仕方でした。石垣は普通の陣屋のイメージを超える、スケールの大きなものですね。

(三浦委員)

スケールが大きいというより、遊び心があります。石垣をただ石が積んであると思

ってはいけません。遊び心を加えると、とても素敵な芸術作品になります。石垣じゃなくてあれは石垣という、キャンパスに絵が描いてあるようなものです。だから、石垣の中では日本で一番遊び心があるし、だから立派だというと、駿府城と比べて小さいとなってしまいます。立派ではなく面白い、遊び心を加えるというのは大事です。全てでもってとにかく遊び心がすなわち余裕です。そういったものを感じられますから、いろんな題材で使っていただけます。

(前田委員長)

いろいろな売り方があるということですね。また他の陣屋のお話なども聞かせていただいて、小島陣屋の活用に活かしていけたらと思います。

(事務局)

委員長委員の皆様、本日はありがとうございました。委員の皆様には引き続き、小島陣跡の整備活用に関し、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

～終了～